

武蔵野公園ほか2公園防災公園電気設備工事 工事説明会

日 時 令和4年12月26日（月曜日） 19時～20時30分
会 場 小金井市立南小学校 体育館
説明者 東京都西部公園緑地事務所 工事課

次 第

1. 開場 （ 18時30分 ）
2. 開会 （ 19時 ）
3. 挨拶、紹介
4. 説明
5. 質疑応答
6. 閉会 （ 20時30分 ）

東京都における「防災公園」

開園済（83公園）＋整備中（1公園）＝計84公園の都立公園のうち、
東京都及び市の地域防災計画等において避難場所や救出救助の活動拠点等に指定され
た 63公園を「防災公園」と位置づけている。

（区部で85%以上、多摩部で55%以上の公園が指定）

	区部	市部	計
避難場所	41	19	60
大規模救出救助活動拠点	14	8	22
ヘリコプター活動拠点	29	8	37
基幹的広域防災拠点	1	0	1

東京都 地域防災計画

各市 地域防災計画

※大規模救出救助活動拠点；

- ・広域支援・救助部隊等が被災者の救出及び救助を行うための活動拠点。
- ・自衛隊、警察災害派遣隊、緊急消防援助隊、その他の広域支援・救助部隊等のベースキャンプとして活用。

※ヘリコプター活動拠点；

- ・迅速な救出・救助、消防活動、物資輸送等に資するためにヘリコプターの緊急離着陸場所として活用。

※同一公園に複数用途による重複があるため、合計数不一致

防災公園の主な施設整備

大規模救出救助活動拠点



避難場所



○ 園路・入口の改修

- ・避難者の安全な避難や、救援・復旧活動等の緊急車両が円滑、効率的に出入りできるように幅員拡幅等の改修を実施。

○ 防災トイレの整備

- ・避難者や帰宅困難者を支援するため、水道や電気等のライフラインが被災した場合でも使用できるトイレを整備。

○ かまどベンチの整備

- ・平時はベンチとして使用し、災害時には座板を取り外して釜戸として炊き出し等に使用できるベンチを整備。

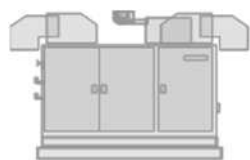
○ 入口表示灯の整備

- ・夜間の停電時でも公園（避難場所）の入口がわかるようにソーラーパネル等を電源とした表示灯を整備。

防災関連の電気設備整備

整備イメージ

非常用電源設備



電力確保

夜間照明の充実



夜間活動を支援

デジタルサイネージ



情報の伝達



消えない公園灯



避難誘導灯



放送設備



安全・安心

多言語対応

避難所開設情報等を迅速に提供

都立武蔵野公園の防災機能

○ 武蔵野公園の地域防災計画上の位置付け

小金井市：小金井市地域防災計画において

広域避難場所：「武蔵野公園（都立野川公園、国際基督教大学を含む）」を指定

避難地域 ： 東町1,2,5丁目、中町1,4丁目（ハケ北側を除く）、
前原町2丁目

府中市 ：府中市地域防災計画において

広域避難場所：「武蔵野公園、都立多磨霊園」を指定

避難区域 ： 多磨町2丁目、紅葉丘1，2，3丁目、若松町5丁目

○ 公園管理者（東京都及び指定管理者）の発災時における役割

- ・ 来園者及び公園周辺からの避難者の安全確保措置
- ・ 公園施設の被災状況の把握
- ・ 市と連携し、避難所への誘導など補助

○ 防災関連施設の整備状況

既存（整備済み）

- ・ 防災トイレ
- ・ 入口表示灯
- ・ 非常用照明

予定

- ・ 防災放送設備（今回工事で整備）
- ・ 非常用照明（今回工事で整備）
- ・ 非常用発電設備（今年度整備）
- ・ デジタルサイネージ（今年度整備）

○ 放送設備

- ・ 整備の目的

災害時における公園内の避難者等の誘導や安全管理のための放送を行う

- ・ 具体的な想定用途

【震災時】

地震情報、公園施設の被害状況、市の避難所等の開設情報等、防災施設利用の案内、周辺救護活動状況 などの情報提供

【平常時・防災】

緊急放送：迷子、防災関連としての天候（雷・雹等）、貴重品の忘れ物 など

注意放送：犬のノーリード、騒音、テント、火気の使用 など

案内放送：公園の管理上必要な情報

小金井市防災マップ参照

MUSASHINO Park 都立武蔵野公園

【開園年月日】昭和39年8月1日
【面積】239,294.61㎡（平成26年6月1日現在）
【お問合せ】042-361-6861



ソーラー照明灯
ソーラー式の道路灯や入口部分には広域避難場所表示灯があります。



防災トイレ（常設）
地下にピット室を設けており、災害時には便槽として使えるようになります。



災害救援ベンダー
災害・緊急事態の発生による停電時に、管理者の操作で自販機内の商品を無料で提供します。



震災対策用応急給水槽
地下に1,500m³の新鮮な水が蓄えられています。災害時に断水した際、水を配る場所となります。

各市の防災マップはサービスセンター内にございます。

府中市防災マップ参照

都立武蔵野公園 防災ガイドマップ

凡例 Legend

- ソーラー照明灯（入り口表示灯）
Solar Street Light (Evacuation area sign)
- サービスセンター
Service Center
- AED 設置
Automated External Defibrillator (AED)
- だれでもトイレ
Universal access Toilet
- 防災トイレ（常設）
Disaster Prevention Toilet (Permanent)
- 授乳室
Breastfeeding room
- ベビーベッド/ベビーチェア
Baby beds and baby chairs

- ソーラー照明灯（道路灯）
Solar Street Light
- 災害救援ベンダー
Disaster aid Vending Machine
- 水飲場
Drinking Fountain
- 水飲場（バリアフリー）
Drinking Fountain (barrier-free)
- 応急給水塔
Emergency water supply tank
- 駐車場
Car Park

- 公園案内板
Park information board
- 休憩所
Rest area
- パーゴラ
Pergola
- バス停
Bus Stop

- 駐輪場
Cycle Park
- 車いすルート
Wheelchair route
- 閉鎖管理地
Closed area



三鷹市防災マップ参照

調布市防災マップ参照

○ 武蔵野公園における情報提供ツールの検討

【検討案】

No	情報提供ツール案	メリット	デメリット	コスト (概算)	評価
1	園内無線放送設備① (園内放送を無線で通信)	①通信用ケーブル敷設が不要	①送受信に不確実性がある ・樹木等が電波の障害となる可能性 ・気候、天候の影響により、音飛びやノイズの懸念 ②電波中継用ポール新設が必要 ③電源用ケーブル敷設が必要 ④スピーカ柱設置が必要	約3100万	○障害物や天候等の外的要因により安定性が低く、防災の観点から採用することは難しい。
2	園内無線放送設備② (インターネットを活用し園内放送を通信)	①通信用ケーブル敷設が不要 ②樹木等の障害物の影響を受けず、無線放送①より通信の安定性が高い	①送受信に不確実性がある ・通信障害や使用制限のリスク ②電源用ケーブル敷設が必要 ③スピーカ柱設置が必要	約2700万	○通信障害や発災時の使用制限のリスクがあり、防災の観点から採用は難しい。
3	スマートフォン	①新規設備が不要	①送受信に不確実性がある ・通信障害や使用制限のリスク ・充電切れのリスク ②端末の未所有者への対応が必要	－	○通信障害や発災時の使用制限のリスクがあり、防災の観点から採用は難しい。 ○全ての避難者への情報提供が確認できない。
4	ドローン	①新規設備が不要	①実績がほとんど無く、未確定要素が多い ②操作ミスや不具合等による事故が懸念 ③飛行時間の制限あり（バッテリー容量） ④操作者の確保	－	○実績がほとんど無く、未確定要素が多いため、防災の観点から採用は難しい。 ○第三者事故等のリスクあり。

No	情報提供ツール案	メリット	デメリット	コスト (概算)	評価
5	広報車	①新規設備が不要	①広報車に対応する人員確保が困難 ②園内一斉放送ができない	－	【地元市への確認結果】 ○発災時の人員確保が困難。《府中市》 ○発災時には車両や人員が不足する可能性が高く、タイムリーな広報は難しい。《小金井市》 ○他の行政機関（警察や消防）も発災時はその状況に応じた、それぞれの対応があるため、特定箇所への対応は難しい。《府中市・小金井市》
6	市防災無線の利用	①新規設備が不要 ②確実に情報を得られる	①市域全体向けの情報と公園向けの個別放送を切り替えて運用することは困難	－	【地元市への確認結果】 ○公園全域では聞こえず、発災は同時多発的に起こることが想定されるので、設備を双方（市と都）で利用することは現実には難しい。また、セキュリティ上平常利用はできない。《府中市》 ○特定のスピーカのみ鳴らすことは技術的には可能だが、大災害において、市が個別の依頼を受け、広報できる体制を確実に取れるのか疑問がある。また、公園全域に届く放送はできない。《小金井市》
7	近隣施設（府中運転免許試験場）放送設備の利用	①新規設備が不要	①施設内向けの放送設備であり公園まで音が届かない	－	【施設管理者への確認結果】 ○用途が施設向けのモノであり、施設外に使用することを想定していない。 ○改修をすることで技術的には可能かもしれないが、施設と公園の両方で使えるようにすると音漏れ、騒音の原因となる恐れがある。 ○発災時の避難場所等として想定されていない。
8	園内有線放送設備（園内放送を有線で通信）	①確実に情報を得られる	①スピーカ柱設置が必要 ②電源及び通信用ケーブル敷設が必要	約2500万	○障害物や天候などの外的要因による影響を受けにくく、確実に情報を得られる。

【検討結果】

○発災時の情報発信に必要となる[安定性（音声障害のリスク）](#)、[信頼性（確実な情報提供）](#)を考慮し、「8. 園内有線放送設備」により情報提供ツールを確保

今回改修工事について

○ 工事概要

工事件名 : 武蔵野公園ほか2公園防災公園電気設備工事
工事期間 : 令和4年1月26日 から 令和5年2月20日 まで
工事金額 : ￥127,600,000.- (うち、武蔵野公園は約￥51,000,000.-)

工事概要

- ・放送設備 : スピーカ柱(5m)、スピーカ(15~30W)
設計音量 52~66dB(参考「通常会話~電話の呼び出し音」)
※普段の園内の騒音値は40~46dB
- ・非常用照明設備 : 既存園内灯3基を蓄電池内蔵タイプの非常用照明へ更新
ソーラ充電タイプの非常用照明を1基新設
- ・公園灯のLED化 : 園内灯の灯具交換によるLED化61基

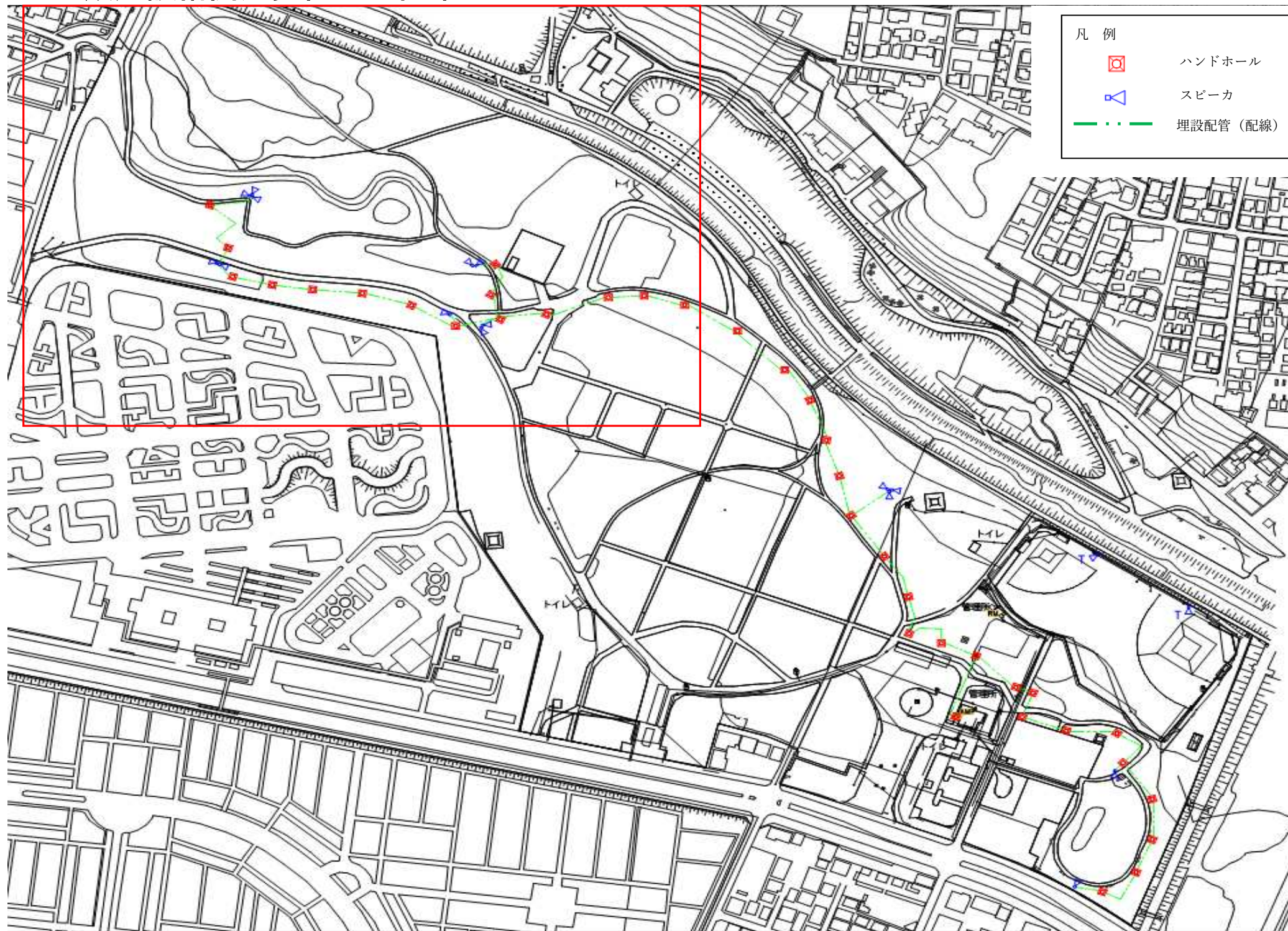
○ その他の工事

工事件名 : 武蔵野公園ほか2公園防災公園発電設備工事
工事期間 : 令和4年6月8日 から 令和5年2月28日 まで

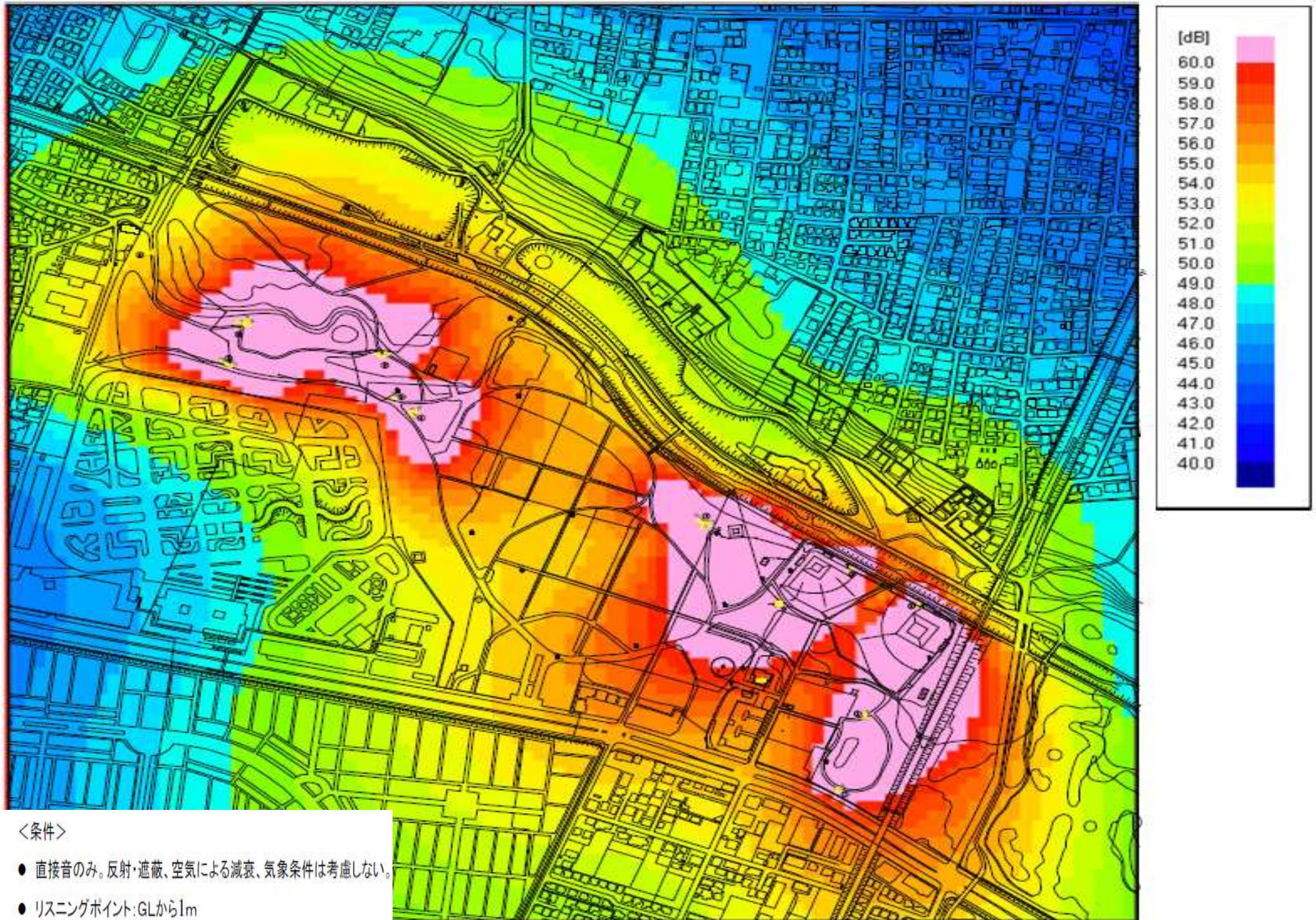
工事概要

- ・非常用発電設備設置工事(サービスセンター バックヤード内)
- ・建物内の施設照明をLED化(サービスセンター、トイレ内)

○ 放送設備関連見直し配置案



○ 音圧分布図



○ 見直し配置（はらっぱエリア）の前後比較

見直し前



見直し後

凡 例	
	ハンドホール
	スピーカ
	埋設配管（配線）



【見直しの考え方】

- ① はらっぱの自然環境への影響を最小限とする。
- ② はらっぱ内のハンドホールを減らし、公園利用時の安全に配慮する。
- ③ はらっぱの景観を阻害しないよう配慮する。

○ 照明設備関連配置図

